

平成28年度今池校区社会福祉協議会事業計画（案）

1 基本方針

城陽市社会福祉協議会（市社協）平成25年に5ヶ年計画として策定した「地域福祉活動計画Ⅳ」が4年目に入りました。

これに準じて今年の今池社協の福祉活動に対する基本方針を立案しました。

少子・高齢化が益々進み、核家族化・地域のつながりの希薄化により、子育て支援・一人暮らし高齢者支援・障がい者支援・等々の福祉サービスの向上が強く求められていますが、一方では自治会にも加入せず、社協会員にも加入されていない人が増えており、活動に支障をきたすことがあり憂慮しております。

もし緊急事態が発生した時、それに対応・対処する為には、つねに現状を把握している事が重要だと考えています。是非入会をお願い致します。

今池校区のことは、今池校区の社協が中心となり、専門機関や専門職、自治会、校区民児協、自主防災会、小・中学校PTA、コミセン等が住民と共に地域社会に山積する福祉ニーズを明らかにし、それを解決するためのサービスや活動団体と役割を分担しながら、住民の創意工夫による自発的な活動や社会参加を促進して参ります。

「何時までもこの町で暮らしたい。住んで良かった。誰もが安心・安全で暮らせる地域づくり福祉の街」は私たちみんなの願いであります。

地域社会の安全と幸せを実現するためには、自立した個人が地域住民として一人ひとりを大切にふれあい交流の場を広げ、「つながる→あつまる→ささえる→かなえる→たよれる」を基本理念とし、仲間意識を持ち声を掛け合い、共に生きる街づくりの精神が尊重され活かされることが重要だと考えます。

以上の様な観点から個々の重点目標・事業内容を掲げました。

2 重点目標

イ 財政、組織、活動基盤の強化

各専門部の組織の強化を図り執行部間との連携を密にする。

ロ 福祉活動の中核的運動体として、地域住民のふれあい交流を深めるように努める。

ハ 地域福祉を推進するため、研修会等を実施する。特に西部在宅介護支援センターは当校区のエリアに該当するため、お互い連携を密にして研修会等を実施する。

ニ 校区社協の永遠の願いである拠点の確保に努める。

ホ 行政、関係機関、諸団体及び各自治会とも連携を密に協働し、保健、福祉、医療、教育を含めた総合的な地域住民の福祉の推進に努める。

3 事業内容

(1) 校区社協の運営及びボランティア活動（V）の活性化を図る。

イ Vの啓発活動を積極的に行う。

ロ Vの集会を定期的の実施し、情報交換に努める。

ハ Vの研修会を実施する。

ニ 要援護者のニーズを把握分析しVコーディネーターによる調整を図る。

ホ 敬老会を開催し、関係団体との連携を図り、お互いのふれあい交流を深め福祉の風土づくりを推進する。

ヘ その他 V部活性化を図るため、開発に効果的であると認められる事業の実施。

(2) 在宅福祉推進事業

- イ 一人ぐらし高齢者等の料理教室と会食会の開催
- ロ 一人ぐらし高齢者の安否確認、友愛訪問の実施。
- ハ 在宅ねたきり高齢者、要支援者を抱えた介護者の激励及び集いの開催
- ニ ふれあいサロンの開催（今池コミセン及び各自治会集会所）

(3) 共同募金分配金を活用し、次の福祉活動を推進する。

- イ キャップハンディ（障がい体験）の実施
- ロ 異世代との交流事業の実施
- ハ 幼児、児童とのふれあい事業の実施
- ニ 住民を対象にした地域福祉懇談会及び研修会の実施
- ホ その他必要と認められる事業

(4) 歳末たすけあい募金の配分金を活用し、地域のその趣旨に即応した事業の実施。

- イ 三者共催のもちつき開催
- ロ 自主防災会の防災訓練に参加と協力
- ハ 小学生との体験学習の開催
- ニ 左義長（どんど焼き）の開催
- ホ その他の事業

(5) 住民参加型相互援助及び毎日型配食サービス事業の啓発

(6) 地域福祉推進事業

- イ 機関紙「福祉いまいけ」の発行。
- ロ 情報伝達のためニュース（ぬくもり）の適宜発行。
- ハ 委員及び会員の研修会、研修旅行の開催。
- ニ 年間活動写真展の開催。
- ホ 市社協、関係機関、団体等が行う住民の福祉に関する研修会、講座、行事への参加。

(7) 自主財源の確保

- イ 福祉バザーの開催。
- ロ ニュース、機関紙への広告主の発掘。
- ハ 社協会員の増強
- ニ 共同募金の増強
- ホ 歳末募金の増強
- ヘ その他適当と認める事業

(8) その他事業への協力

- イ 日本赤十字社社員増強に協力